

大阪は、すっきりしないお天気の日が続いていますが、沖縄はすでに梅雨明け、観測史上最も早かったとか。

被災した子どもたちに本を贈る運動、これまでに1000万円を超える募金をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。2週間前から、本を必要とされる施設の募集を始めました。引き続きご支援をお願いします。

現在会員登録数544人さま。ご愛読いただきありがとうございます。次号は7月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk

《2》読書活動ボランティアのためのワンポイント 10

《3》サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈るー その1

『いっしょだよ』募金のお願い！

子どもたちに本を！被災地の図書館や学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

◎ 募金は最寄りの郵便局から郵便振替による送金をお願いします。

口座番号：00970-9-12891 加入者名：毎日新聞大阪社会事業団

・通信欄に「子どもの本」と明記ください。

・お名前を毎日新聞に掲載させていただきます（匿名にもできます）

・税制上の優遇措置が受けられます。

* 本そのものの寄付は、受け付けておりません。ご了解ください。

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈るー その2

「本の寄贈を希望される施設」の募集！

一般の皆さま方から多くの善意の寄付金をいただき、本を購入して、被災した子どもたちに本を贈ります。東日本大震災で被災され、本を必要とされる機関・団体を募集します。

・対象：子どもの本を設置し、子どもたちが自由に読める空間があり、本の寄贈を希望される施設

例：学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫など

・寄贈先予定数：200カ所（予定）

・図書の内容：施設の年齢対象、人数等にあわせ、適当と思われる本を購入

し保護カバーをつけて送付します。

- ・受付期間：平成23年11月末日まで（予定）
- ・応募：当財団ホームページから申込みできます。

上記2件とも 詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>
お申込み／お問合せ：

当財団「東日本大震災『いっしょだよ』キャンペーン」事務局
主催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合
毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『阪田寛夫全詩集』 阪田寛夫/著 伊藤英治/編 織茂恭子/絵 杉浦範茂/
デザイン 理論社 2011年4月

概要：阪田寛夫の1100編の詩を所収した詩集。第一部の作品と第二部の年譜・著作目録、あとがき（伊藤英治）、索引からなり、作品は年齢対象別に編集された詩と組曲、舞台作品、子どもの本、歌、初期詩稿、未刊詩篇に分かれ、発表順に並べられている。索引にはすべての詩の初出と掲載作品の底本が書かれている。

Y：新生・理論社の第一作として待望の『阪田寛夫全詩集』が出版されました。

O：同じ理論社刊の『まどみちお全詩集』1992年と双璧をなす詩集です。
『まどみちお全詩集』は私の「座右の書」になっていますが、この詩集も、阪田さんの詩が全部入っているので、阪田さんという詩人が近くにきてくださって、とてもうれしい感じがします。

Y：阪田さんの詩は関西弁が独特のユーモアをかもし出しています。世の中に対する風刺を感じたり、生きることに苦味を感じたりしながら読みました。

O：キリスト教の家に育ち、物事の真髄をいつも見つめていた方だったので、見たことを見なかったことにしない姿勢や反骨精神を、なんともやわらかなユーモアに包んで、価値の転覆を図っているような詩には、子どもに返ったような爽快感が残りました。

Y：この詩集のすごいところは、阪田さんの詩がすばらしいだけでなく、その編集にもあると思います。2005年に亡くなられた阪田さんの家の鍵を預かって詩の発掘をされた伊藤英治さんは編集者魂を持った気骨のある編集者でしたが、本書の刊行を待たず、昨年12月に亡くなられました。

O：私は、伊藤さんが雑誌『日本児童文学』の編集をされていた1970年代に声をかけてもらってから、灰谷健次郎さんとの書評対談や、伊藤さんがカメラで撮影しながら録音テープをとり、司会もされる座談会など、いっぱい教えていただきながら、一緒に仕事をしました。いつも、子どもの本への思いがほとぼしり出る熱い熱い方でした。

Y：伊藤さんは、国際児童文学館の資料をフルに活用してさまざまな本を編集されました。今回の『阪田寛夫全詩集』にも国際児童文学館の名前を掲載してくださっていますが、たえず電話や手紙で「〇〇の資料が△△の雑誌に載っているはずなんだけど」という調査依頼をいただきました。

O：資料を徹底的に調べ尽くすというのは、本当に労多い地味な仕事、出版にこぎつけるためにどれだけの時間がかけられたのか……。まど・阪田という二人の全詩集を刊行された伊藤さんの業績に頭が下がります。ありがとうございます、そして、いい仕事残せて、おめでとう伊藤さん。多くの方の目にふれますように……

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 10

「その5 絵本の選び方(6) 絵本を評価する：構成」

私たちが物語を把握するときには、意識しなくても「始め→中→終わり」という構成を読み取っています。そして、私たちは、「始め→中→終わり」というまとまりで人にできごとやメッセージを伝えます。そういう意味で構成は物語にとって欠くことのできない要素です。

1冊の絵本を評価するとき、いくつかのまとまりに分けて、まとまりどうしの関係を整理してみることをおすすめします。特にグループでは、この作業によって話し合いが活発になると思います。

例えば、1冊の絵本を「起承転結」に分けてみると、人によって分ける部分が異なることがあるかもしれません。なぜ、そこで分けるのか、分けた前後でどのような違いがあるのか、他の人と違うのはなぜなのかを話し合うことが作品理解に結びつきます。分け方の正解を求めるのではなく、どのような観点から分けることがその作品を深く理解するのに役立つのかを話し合うことが重要です。

それによって、作品に違和感を抱いたり、物語としてしっくりこないと感じたりする理由が、クライマックスがない、結末が結末として機能していないなど、構成上の問題によることがわかることがあります。逆に、巧みな構成が見えたとき、その絵本が何を言おうとしているのか、メッセージをいかに伝えようとしているのかが理解でき、絵本を読み解く楽しさを感じることができます。

そして、話し合いの結果、構成の分け目やクライマックスが明らかになり、それを意識して読むことで、聞き手もまた、絵本の構成を受け入れて楽しめるようになります。

* 次号では「その5 絵本の選び方(7) 絵本を評価する：絵」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 10 回目。今回も教科書関係のサイトをご紹介します。まずは、公益財団法人 教科書研究センター 附属教科書図書館
<http://www.textbook-rc.or.jp/library/index.html>

教科書研究センターは、教科書に関する調査研究機関として、教科書発行会社の出捐によって作られました。その附属施設として、図書館が開館したのが昭和 52 年。以来、継続的に資料収集を行い、所蔵資料は、検定教科書や指導書、副読本、戦前の関連資料から、外国語の教科書まで約 12 万 7,000 点にも及びます。前回紹介した東書文庫に匹敵する資料数です。教科書を調べる際には、この二つの機関は大きな存在です。

ただし、サイト検索できる資料は約 3 万点なので、所蔵や掲載作品など詳しく知りたい場合は、レファレンスサービスを利用するのがよいでしょう。

教科書に関するサイトをもう一つ。広島大学附属図書館 所蔵コレクション
<http://cross.lib.hiroshima-u.ac.jp/index.htm>

師範学校時代からの資料を多数保存していますが、江戸時代の寺子屋で使用された「往来物」から、昭和 25 年までの教科書を画像化したもので、約 5,600 冊を収録する貴重なデジタルアーカイブです。

時期（検定・国定・現行など）や教科別、学校制度別（初等教育・中等教育など）、またキーワード検索などができ、そこから画像を確認できるのが大きな魅力。（すべての画像が収録されているわけではありません）

これらサイトを組み合わせることで、より詳しく調べることができます。(J)
※次号は、資料所在データベース篇〈その 11〉の予定です。

《4》 行って来ました！

6 月 10 日に公開された映画「赤ずきん」を観てきました。「赤ずきん」と言えば誰もが知っているグリム童話のお話ですが、この映画は、成長した後日談ではなく、赤ずきんの設定を活かした別の物語になっていました。

舞台は暗い森がせまる小さな村。ヴァレリー（赤ずきん）には、幼馴染の木こりの恋人がいますが、親は、裕福な鍛冶屋の息子との結婚話を進めています。満月の夜、ヴァレリーの姉が殺されます。やってきた神父は、人から狼に変身する「人狼」のしわざであると告げ、狼探しが始まります。村人は

誰もが疑心暗鬼になり、ヴァレリーも身近な人まで疑い始めます・・・。

二人の男性との恋に揺れるヴァレリー、サスペンスの最後まで予想がつかない展開に、童話に出てくるせりふやエピソードも盛り込まれています。映像的には、おばあちゃんからもらう赤いマントが、暗い森と白い雪に映えてとても印象的でした。

さて結末はハッピーエンドなのか、そうでないのか、人によって感じ方が異なりそうです。私にはヴァレリーは幸せになったと思え、満足でした。この映画の小説版が竹書房から出ていますが、最終章はオフィシャルサイトで読む仕掛けになっていて楽しめます。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 公開インタビュー

せとうちたいこさんの「絵本作家・長野ヒデ子さんに聞く」

語り手：長野ヒデ子さん（絵本作家・絵本学会理事）

インタビュアー：巽真理子さん（大阪府立大学）

日時：7月10日（日）13：00～15：45

会場：大阪府立中央図書館 大会議室

定員：70名（申込順）

参加費：会員・学生 無料 一般 1,000円

主催：絵本学会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《4》行って来ました！で紹介しました映画『赤ずきん』のパンフレットと小説版（竹書房）をセットで1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.10プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は7月11日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

雨二モマケズ。梅雨時、サッカー観戦用に小洒落た雨用シューズはないかと探している。「一見スニーカー、実は雨靴」が欲しい。NIKE 製ならサイコーだ。そう決めて勇躍入ったお店では、昔ながらの“黒のゴム長”売り場に案内された。女性用はカラフルで斬新なものに様変わりしてるってのに…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
